

神社の杜（五十八）

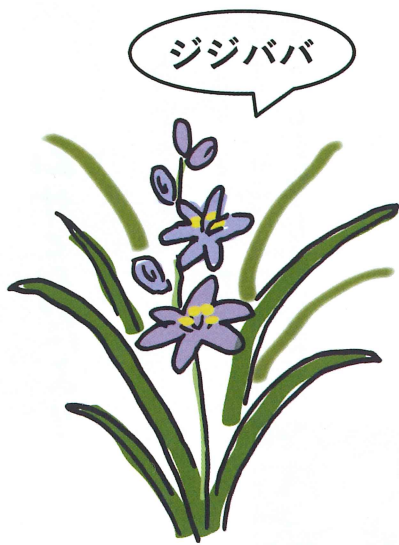
『夏越の大祓とジジババ』

片柳 茂生

茅の輪くぐりで知られる夏越の大祓。生活の中で知らず知らず身についた罪や穢れ、災厄を祓う行事です。今回はこの大祓式の準備についてお話ししましょう。

大祓いに必要なものにます人形ひなたね、これは事前に作り、氏子の皆さんにお配りします。この他の物は行事が行われる六月三十日の前日に十名程の神主が分担して作らなければなりません。結構大変な仕事です。

準備は、早朝茅場かやばから一人が一抱え程の茅を刈り採つてくるところから始まります。神社に集められた茅は大量です。その茅を使ってます茅の輪を作



ジジババと称する植物の新芽をやはり八束。③から⑤はそれぞれ長さを二十位に揃えます。ここで、えージジババがなんで！と思われた方もいるでしょう。そうです、これらの祓儀物の中で、ジジ

ります。直径六尺程のものを二つ。それと近年になつて犬用の茅の輪も作るようになりまし。選りすぐった茅で菰も作ります。この菰は、行事の最後には舟に仕立てられ、人形や威儀物を包み込むように乗せ、翌日神主によつて七代の滝から流されます。その舟に乗せる威儀物も別の神主によつて作ります。それは、①形代を叩く長さ一尺五寸程の桃の枝の棒、②形代を乗せて叩く台、これは八寸程に切つた桃の枝をすだれ状に編んで作ります。③右と左に縘り分けた麻紐を各八本。④太さ二センチ程の桃の枝を細く裂き、八本一束にしたものを八束、⑤神社の裏山

から採取して、

ババだけがこの行事に何故か相応さまわくなくと思えるのです。

ジジババとは早春に咲く春蘭の別名ですが、桃や麻のように「祓」に特別な意味合いはありません。本来は「スゲ」であつたと思われま。春蘭とスゲ、確かに葉の形は似ています。でも形だけです、生え方や色合い、葉の硬さなど明らかに違います。花が咲いている時ならば一目瞭然です。たぶん先人たちが何時のころからか呼び名を取り違えてしまったのでしょう。さらに面白いことに、裏山から採取して植物の新芽は春蘭やスゲとも全く違つたものでした。実際に採りに行つて初めて解つたのですが、ジジババとはヒメヤブランの事だつたのです。ヒメヤブランは夏の終わりに高さ十センチ程に伸びた柄に淡い紫色の小さな花を数輪付ける目立ちませんが可愛い花です。

先人たちの勘違いだつたのかもしれないませんが、今でもそしてこれからも大祓いに必要な植物はあくまで「ジジババ」なのです。

あとがき

初晴れにはじまり明るい年になると思いきや、再度感染拡大したコロナウイルス。収束に向かっていることは間違いありませんが、もう少し辛抱することになりそうです。世界では驚くべきことが起きています。中でも、一月のトンガ海底火山大規模噴火。思い出されるのは平成三年のフィリピン・ピナツボの大噴火。地球規模の気候変動が起こり、二年後には冷害による米の不作、いわゆる「平成の米騒動」が起こるに至りました。今回も同じように影響を及ぼす可能性があるとされています。

我が国がこの先も未永く、瑞々しい稲穂が豊かに実る国であることを願うばかりです。

最後に、この半年間を無事に過ごせたことを御嶽大神に感謝し、毎年丁寧に教授下さる先生方、ご奉納頂きました皆様、各種祭典や行事に御協力・御協賛下さいました崇敬者の皆様、各所関係機関の皆様、厚く御礼申し上げます。また、齋藤慎一先生、鶴巻育子様、玉稿を有難うございました。

令和四年 三月二十五日発行

(年二回発行・非売品)

編集 武蔵御嶽神社

TEL 〇四二八(七八)八五〇〇

FAX 〇四二八(七八)九七四一

http://www.musashimitakejinja.jp/

印刷 (株)成和印刷

武蔵御嶽神社 公式 SNS



facebook



instagram